

令和3年度 地域包括ケアとコミュニティソーシャルワーク研修 実施要項

- 地域共生社会の実現を目指す職種横断的研修 -

1. 目的(趣旨)

昨今の少子高齢化や人口減少、核家族・単身世帯の増加等の社会構造の変化に伴い、地域においては社会的孤立や生活困窮、虐待など深刻で多様な問題が顕在化しています。

このような中、国においては、これらの複雑化・複合化したニーズに対応する包括的支援体制の構築に向け、「重層的支援体制整備事業」を制度化するなど、地域共生社会政策が進められており、社会福祉の大きな転換期を迎えています。

これらに共通する視点は、個人の生活を、地域を基盤として支え、ネットワーク形成や社会資源開発を含めた地域づくりそのものを目指していくことであり、コミュニティソーシャルワークの考え方が、これからの社会福祉実践の基礎的な視点となっています。

また、誰もが安心してその人らしく暮らすことができる地域づくりのためには、既存の制度・サービスだけでは対応が困難な課題を抱える人々に対して、身近な場で生活者と同じ視点を持って、地域住民や関係機関・団体と協働して支援を行うことが求められます。

本研修は、これらの役割を担う支援者や地域の実践者が、様々な地域社会生活課題への対応力を養い、解決につなげることができるよう、コミュニティソーシャルワークの視点や考え方を理解し、その展開プロセスや手法を学ぶための機会として開催します。

2. 主催 社会福祉法人富山県社会福祉協議会・富山県福祉カレッジ

3. 協力 特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所

4. 後援

富山県地域包括・在宅介護支援センター協議会、富山県老人福祉施設協議会、富山県知的障害者福祉協会、(公社)富山県精神保健福祉協会、(一社)富山県社会福祉士会、富山県精神保健福祉士協会、(一社)富山県介護支援専門員協会、富山県相談支援専門員協会、富山県民生委員児童委員協議会、富山県

5. 期 日

(1)前期課程 令和3年10月14日(木)・15日(金)

(2)後期課程 令和3年12月9日(木)・10日(金)

6. 定 員 30名

7. 会 場

パレプラン高志会館(3階 薫風の間) 富山市千歳町1-3-1 : 076-441-2255

8. 参加対象者

- (1) 市町村社協職員（地域福祉推進部門担当者、日常生活自立支援事業及び成年後見制度担当者、生活福祉資金貸付事業担当者等）
- (2) 地域包括支援センター職員
- (3) 障害者相談支援機関職員
- (4) 生活困窮者自立支援事業における自立相談支援機関職員
- (5) 市町村行政において地域福祉及び地域福祉計画を担当する職員
- (6) 社会福祉法人の「地域における公益的な取組」の担当者
- (7) 介護支援専門員等
- (8) スクールソーシャルワーカー
- (9) 民生委員・児童委員、ケアネット活動リーダー等

9. 日程

【前期課程】

【1日目】10月14日（木）

時間	内容	講師等
9:00	受付	
9:30	開会・オリエンテーション	
9:40 (60分)	【講義】 「地域共生社会政策時代における地域包括ケアと コミュニティソーシャルワーク」 地域福祉関連制度・施策の歴史的展開と今日における コミュニティソーシャルワークの必要性や意義を学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏
10:50 (80分)	【演習】 事例報告 ～県内の4事例から～	大橋 謙策 氏
	事例 小杉南地域包括支援センター 介護支援専門員 石川 ひとみ 氏	富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
	Aさん（80代）アルツハイマー型認知症があり、判断能力の低下がある。 Bさん（70代）双極性障害があり、精神科通院治療中。 Cさん（50代）軽度知的障害があり、就労支援事業所を利用中。 同じ集合住宅の中で様々な課題を抱え、判断力に不安のある3人が支え合っているが、以前より3人の間には金銭の貸し借りがあり、Aさんの年金が数日間でなくなって生活が成り立たなくなる等のトラブルが発生している。また、それぞれに関係機関が関わっているが、十分な連携が図られていない状況にある。 このように、互いに生活課題を抱えつつ関係し合っている世帯の自立生活に向けた今後の支援（情報共有や地域のネットワークづくり等を含む）について考えます。	
	事例 魚津市障害者生活支援センター 所長代理 笠木 圭子 氏	
	軽度知的障がいのあるAさん（10代）幼少期から慢性腎不全で治療を受けているほか、昨年の春にはてんかん発作があり、運動にも制限があるなど日々の体調管理が重要となっている。学校は不登校であったが、現在は無理のない程度で登校している。母、兄、伯母の4人家族。母は外国籍、日本語で日常会話はできる程度。兄（20代）は知的障がいがあり、数年前に日本へ来た。叔母は働いているが日本語は話せない。 このように、文化や言葉の違いがある中で、障がいや病気の理解、適切な情報の収集等 様々な生活上の課題を抱えている家族への支援について考えます。	

事例	富山市社会福祉協議会 地域福祉課 主事 山本 真輝 氏	<p>精神障がいのある女性 A さん。母親と同居しており金銭が無くなると、母親と言い合いになり精神的に体調を崩してしまい暴力に発展することもある。A さんの精神科病院の入院をきっかけに、母親と居住の場を分けることを決意しグループホームに転居した。母親も同意していたが、毎日、A さんに家に帰ってくるように連絡し、無断外泊を続けて退去となる。自宅に戻ると母親と、金銭が原因で言い合いを繰り返して、A さんは体調を崩して入退院を繰り返すようになる。</p> <p>このように、母親とのトラブルによって、地域での生活を続けることが困難な状況にある世帯への支援について考えます。</p>
事例	富山県東部生活自立支援センター 主任相談支援員 関口 恭子 氏	<p>A さんは 17 年ほど前に夫と離婚し、息子 2 人と生活している。近くに実家があり、弟が造園業を営んでいる。長男は小学校のころから不登校となり、単位制の高校に通うが 1 年で退学。退学後は弟の造園の仕事を手伝っているが、仕事に行方不明になるなど仕事にならない。次男も不登校で 20 歳の時に幻覚・幻聴が現れ、統合失調症と診断されるが、障害年金の対象にはならなかった。長男も診断は受けていないが、発達障害の可能性が高い。実家の家族は障害への理解がなく、頼ることができない。</p> <p>このように、精神障害の子をもつひとり親家庭への支援について考えます。</p>
12 : 10	昼食・休憩	
13 : 10 (90 分)	<p>【演習 -1】事例検討 「コミュニティソーシャルワークの視点による 個別課題アセスメント」</p> <p>報告のあった個別事例に基づき、必要なアセスメントの視点と枠組みについて考える</p>	<p>大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏</p>
14 : 50 (130 分)	<p>【演習 -2】事例検討 「コミュニティソーシャルワークの視点による 問題解決方針の立案と援助システムづくり」</p> <p>報告のあった個別事例に対する援助方針の立案とその具現化に必要なシステムについて考える</p>	<p>大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏</p>
17 : 00	終了	

【 2 日目 】 10 月 15 日 (金)

時間	内容	講師等
9 : 30 (100 分)	<p>【演習 -2 (続き)】事例検討 「コミュニティソーシャルワークの視点による 問題解決方針の立案と援助システムづくり」</p>	
11 : 20 (50 分)	<p>【演習 ロールプレイ】 「ヴァルネラビリティのある人の相談支援」</p> <p>自己覚知を通してヴァルネラビリティのある人の相談支援のあり方について学ぶ</p>	<p>大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏</p>

12:10	昼食・休憩	
13:10 (80分)	【演習 ロールプレイ(続き)】 「ヴァルネラビリティのある人の相談支援」	
14:30 (40分)	【講義】 「ヴァルネラビリティのある人の特性とアウトリーチの必要性」 ヴァルネラビリティのある人の特性を理解し、発見の仕方や適切な相談支援へのつなぎ、信頼関係の構築について学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏
15:20 (100分)	【演習 -1】 「コミュニティソーシャルワークの展開と問題解決プログラム開発(1)」 コミュニティソーシャルワークを展開するための圏域の設定や機能、地域生活課題の捉え方、問題解決のためのプログラム開発について学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
17:00	終了	

【後期課程】

【1日目】12月9日(木)

時間	内容	講師等
9:00	受付	
9:30 (170分)	【演習 -2】 「コミュニティソーシャルワークの展開と問題解決プログラム開発(2)」 ・問題解決プログラム立案、グループ発表 ・プログラムの立て方、データ活用、実現するための手順や方法等について学ぶ	大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
12:20	昼食・休憩	
13:20 (60分)	【演習 -2(続き)】 「コミュニティソーシャルワークの展開と問題解決プログラム開発(2)」	
14:30 (150分)	【演習】 「日常生活圏域における支援システムの構築とソーシャルサポートネットワークの形成」 本人が有する社会的関係や地域資源との関係性に着目したソーシャルサポートネットワークの形成支援とそれを実行するための仕組みづくりについて考える	大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
17:00	終了	

【2日目】12月10日（金）

時間	内容	講師等
9：30～ （150分）	【演習（続き）】 「日常生活圏域における支援システムの構築とソーシャルサポートネットワークの形成」	大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
12：00	昼食・休憩	
13：00～ （140分）	【演習（続き）】	
15：30～ （90分）	【総括講義】 地域共生社会の実現に向けて専門職に求められる役割や必要な視点や考え方を再確認するとともに、今後のコミュニティソーシャルワーク実践のポイントを押さえる	大橋 謙策 氏
17：00	終了	

10. 参加申込み

- (1) 申込期限 令和3年9月30日（木）
- (2) 申込方法 別紙「参加申込書」によりFAXまたはメールでお申込み下さい。
 なお、開催要項及び参加申込書は、本会（福祉カレッジ）ホームページからダウンロードできます。（<https://www.toyama-shakyo.or.jp/>）
 FAX：076-432-6124（地域福祉・ボランティア振興課）
 Eメール：uozumi@wel.pref.toyama.jp
- (3) 参加費 5,000円
- (4) テキスト 『コミュニティソーシャルワークの新たな展開』（中央法規、2019年6月）
 及び代金 2,600円
 上記テキストをお持ちの場合やご自身で購入される場合は、購入申込不要です。
- (5) 参加費及びテキスト代金のお支払い方法
10月13日（水）までに下記指定口座へお振込みください。
 なお、振込手数料はご参加される方においてご負担願います。

北陸銀行 県庁内支店 普通預金 1083785 口座名義：社会福祉法人 富山県社会福祉協議会

(6) その他 申込多数の場合は、参加人数の調整やお断りをさせていただく場合があります。その際は、申込期限後、1週間以内にご連絡します。

11. その他

全課程の受講を条件に修了証書を交付します。本研修課程の修了者には、別途本会が開催するコミュニティソーシャルワーク実践者フォローアップ講座の受講資格が得られます。

12. 新型コロナウイルス感染症への対策

新型コロナウイルス感染症拡大防止等のために本研修会を延期・中止する場合は、各受講者（申込担当者）へ事前にご連絡いたします。

受講定員を削減(収容定員の50%以下)し、4～5人で一組のグループ編成を行います。
研修当日までの2週間以内に発熱や咳、風邪症状等のある方は参加をご遠慮ください。
会場にアルコール消毒を準備しますので、手指消毒やこまめな手洗いをお願いします。
研修中は適宜会場の換気を行いますので、防寒着等温度調節できるようご準備願います。
研修受講にあたってはマスク着用をお願いします。

13. 問合せ先

富山県社会福祉協議会 地域福祉・ボランティア振興課〔担当：魚住・池田・水井〕

〒930-0094 富山市安住町5番21号

TEL：076-432-6123 FAX：076-432-6124 E-mail：uozumi@wel.pref.toyama.jp